

● ● ● 経営情報あれこれ ● ● ●

》》》》》》》》》》 令和3年11月号 《《《《《《《《《《

★世界経済の動向★

10月22日、IMF（国際通貨基金）は、世界の経済成長率が2021年に5.9%、2022年に4.9%上昇するとの予測を公表しました。前回7月の経済予測から2021年は0.1%下方修正されました。

今月は、現状の経済状況等について、紹介いたします。

1、世界経済の動向

(1) IMFの経済予測

2021年において、世界的なワクチン接種の広がりの中、世界経済は回復しており、先進国、新興国、発展途上国において、3%~9%の経済成長が見込まれます。特に、インドにおいては9.3%と高い成長が見込まれます。他方、先進国の7月~9月期の経済成長は、米国2.0%、ユーロ圏2.2%、日本△0.7%（予測）と掲載回復に一服感が生じています。

また、世界経済回復に伴い、資源・エネルギー価格の高騰と物価上昇という問題が世界的に生じています。

2022年は、経済回復の中、資源・エネルギー価格や物価動向、政策金利に注意が必要です。

(実質GDP、年間の変化率%)	2020	2021	2022
世界の総生産	-3.1	5.9	4.9
先進国	-4.5	5.2	4.5
米国	-3.4	6.0	5.2
ユーロ圏	-6.3	5.0	4.3
ドイツ	-4.6	3.1	4.6
フランス	-8.0	6.3	3.9
イタリア	-8.9	5.8	4.2
スペイン	-10.8	5.7	6.4
日本	-4.6	2.4	3.2
英国	-9.8	6.8	5.0
カナダ	-5.3	5.7	4.9
その他の先進国	-1.9	4.6	3.7
新興市場国・発展途上国	-2.1	6.4	5.1
アジアの新興市場国・発展途上国	-0.8	7.2	6.3
中国	2.3	8.0	5.6
インド	-7.3	9.5	8.5
ASEAN-5	-3.4	2.9	5.8

(2) 工作機械受注に見る日本経済と世界経済の動向

①景気の動向

世界経済は、2018年10月頃から、景気後退期に入り、2019年、2020年と景気が後退し、世界では2020年11月頃に景気の底となり、また日本では2021年2月が景気の底となり、そこから景気は急速に回復しています。

景気回復の大きな要因は、世界各国の政府が、数百兆円に上る経済対策・コロナ対策を実行したことで、中国・米国・ユーロ圏の消費が増大し、これに伴い、日本等からの輸出が増加したことにあります。

次のように、工作機械受注の推移（前年比100%が起点）と景気の動向は、ほぼ一致しています。

2019年1月から2021年9月までの工作機械受注の推移は、次のとおりです。

年・期・月	工 作 機 械 受 注					
	受注総額	前年比	内 需	前年比	外 需	前年比
	百万円	%	百万円	%	百万円	%
19年1	125,401	81.2	46,772	84.1	78,629	79.6
2	109,744	70.7	41,671	71.6	68,073	70.2
3	130,664	71.5	53,938	71.5	76,726	71.5
4	108,656	66.6	43,524	63.5	65,132	68.9
5	108,535	72.7	42,710	67.9	65,825	76.2
6	98,928	62.1	37,700	59.9	61,228	63.6
7	101,278	67.0	41,171	61.1	60,107	71.8
8	88,487	63.0	37,541	60.2	50,946	65.3
9	98,973	64.5	46,065	71.5	52,908	59.4
10	87,453	62.6	33,423	58.0	54,030	65.9
11	81,669	62.1	31,369	54.5	50,300	67.9
12	90,114	66.5	37,307	65.3	52,807	67.4
20年1	80,877	64.4	29,589	63.3	51,191	65.1
2	77,224	70.4	31,997	76.8	45,227	66.4
3	77,355	59.2	34,235	63.5	43,120	56.2
4	56,143	51.7	21,149	48.6	34,994	53.7
5	51,239	47.2	18,192	42.6	33,047	50.2
6	67,190	67.9	23,362	62.0	43,828	71.6
7	69,788	68.9	24,808	60.2	44,980	74.8
8	67,980	76.8	23,069	61.5	44,911	88.2
9	84,099	85.0	30,270	65.7	53,829	101.7
10	82,211	94.0	28,892	86.4	53,319	98.7
11	88,680	108.6	27,042	86.2	61,638	122.5
12	99,057	109.9	31,842	85.4	67,215	127.3
21年1	88,627	109.7	26,405	89.1	62,222	121.6
2	105,593	136.7	30,470	95.2	75,123	166.1
3	127,876	165.1	40,487	118.2	87,389	202.3
4	123,974	220.8	36,078	170.6	87,896	251.2
5	123,936	241.9	33,223	182.6	90,713	274.5
6	132,081	196.6	44,656	191.1	87,425	199.5
7	134,983	193.4	45,385	182.9	89,598	199.2
8	126,587	186.2	46,219	200.4	80,368	178.9
9	144,596	171.9	57,560	190.2	87,036	161.7

(3) 日本の状況

日本の製造業では、2020年と比較し、2021年は約150%の工作機械の発注を行っており、9月単月では、前年同月比約190%の発注増加です。特に、自動車を除く輸出関連産業、鉄鋼非鉄関連産業では約300%の発注であり、製造業を中心に景気が回復しています。

(単位:百万円、%)

需要業種		期間	9月	前月比	前年同月比	21年累計	前年同月比
1. 鉄鋼・非鉄金属			2,658	184.1	359.2	14,026	168.8
2. 金属製品			5,695	121.4	254.9	29,224	179.1
機械製造業	3. 一般機械		23,657	132.9	196.9	139,787	141.0
		(うち建設機械)	1,202	111.4	143.3	7,392	129.5
		(うち金型)	3,756	113.7	346.5	17,853	175.1
	4. 自動車		10,525	114.9	143.7	84,823	148.7
		(うち自動車部品)	7,309	112.9	147.6	62,643	170.2
	5. 電気機械		5,412	154.0	279.3	29,814	182.8
	6. 精密機械		2,197	145.0	145.1	16,503	161.5
	5-6. 電気・精密計		7,609	151.3	220.4	46,317	174.6
	7. 航空機・造船・輸送用機械		1,842	158.0	121.6	9,762	110.2
		(うち航空機)	793	250.9	270.6	3,060	97.6
3-7. 小計			43,633	131.6	179.5	280,689	146.6
8. その他製造業			2,817	94.3	239.5	19,325	227.7

(4) 世界各国の状況

世界各国においても、工作機械に対する需要は増加しており、景気が回復しています。

①アジア地区

世界で、先駆けて景気が回復したのが中国でした。コロナ対策を徹底したことで、国内消費が増加する中で、政府の数百兆円に上る経済対策により、2020年秋から景気が回復しました。しかし、政府の各種規制の強化、石炭生産の減産による電力不足、消費者物価上昇等から、鋳工業生産が伸び悩み、消費も減速し、景気回復のペースがダウンしています。

アジアで最も経済回復が著しいのがインドです。旺盛な消費需要、政府の経済対策等により、製造業、サービス業等の産業全般に景気回復が見られます。

②ユーロ圏・欧州

コロナ禍が残る中で、経済は回復しています。資源国（ロシア、北海湾岸国）経済は、堅調に推移し、またその他のユーロ圏でも、資源価格高騰、物価上昇の中、経済は順調に回復しています。

③米国

米国経済は、政府の経済対策、コロナ禍の中での経済優先の規制緩和等により、国内消費が堅調に推移し、また資源・穀物価格等の上昇の恩恵を受け、順調に回復していました。

しかし、急激な景気回復により、世界的な供給網の整備が追い付かず、年率5%程度の物価上昇が生じています。これに加え、株価や不動産価格が上昇し、債券価格が下落（長期金利の上昇）しています。このため、7月～9月の経済成長率は2%台と急速に落ち込み、今後の動向が注目されます。

米国以外のその他の国でも、経済は回復していますが、資源価格の上昇、物価の上昇、長期金利の上昇がみられます。

B. 外需国・地域別受注額

(単位:百万円,%)

国・地域		期間	9月	前月比	前年 同月比	21年 累計	前年 同月比
ア ジ ア	東 ア ジ ア	韓 国	1,684	57.4	141.0	23,775	189.6
		台 湾	2,988	98.8	188.9	24,548	200.0
		中 国	25,929	108.5	124.5	278,043	219.0
		そ の 他	0	-	-	369	39.5
		小 計	30,601	102.5	124.9	326,735	214.0
	そ の 他 の ア ジ ア	タ イ	1,031	63.5	112.9	13,646	152.6
		マレーシア	621	89.9	76.3	6,893	121.1
		シンガポール	458	91.8	307.4	5,668	225.6
		フィリピン	520	393.9	1,130.4	1,553	163.6
		インドネシア	198	59.6	15.5	3,904	105.9
		ベトナム	496	108.8	182.4	6,046	153.3
		インド	3,982	194.1	253.6	26,153	255.1
		そ の 他	1	0.3	50.0	441	137.4
	小 計	7,307	120.1	144.8	64,304	177.1	
小 計	37,908	105.5	128.3	391,039	206.9		
欧 州	E	うちドイツ	4,771	129.0	331.8	30,956	224.6
		うちイタリア	3,849	116.1	268.8	28,054	375.8
		うちフランス	2,206	102.3	521.5	13,688	262.5
		うち中欧	1,330	114.0	274.8	10,461	141.7
		その他	3,186	97.8	292.0	26,870	205.7
	小 計	15,342	112.8	-	110,029	-	
	そ の 他 西 欧	うちイギリス	1,584	75.8	129.9	13,930	170.4
		うちトルコ	1,747	153.2	313.6	12,025	261.3
		うちスイス	868	195.1	264.6	5,041	184.6
		東 欧	83	207.5	377.3	862	66.0
		ロシア・その他	512	188.2	116.9	2,941	102.0
小 計	20,289	112.8	272.4	147,309	217.1		
北 米	アメリカ	24,134	108.4	171.6	172,702	153.2	
	カナダ	1,807	127.6	171.1	11,986	184.4	
	メキシコ	1,067	152.0	161.4	10,366	91.5	
	小 計	27,008	110.7	171.1	195,054	149.4	

2、世界的な資源価格・物価の動向

世界経済の急速な回復は、需要に対し供給が追い付かず資源価格や物価の高騰をもたらし、これが世界各国の大きな影響をもたらしています。

(1) 資源エネルギー価格の動向

世界三大エネルギーである石油、石炭、天然ガスは、各国の思惑により供給が伸びない中で、需要増大により、価格が上昇しています。

最も価格が上昇しているのが天然ガスです。地球環境問題から、石炭・原油に代わるエネルギーとして、世界的に需要が増加している中で、景気回復による需要増加により、2020年5月と比較し、価格が5倍程度上昇しています。

環境問題から、生産量を削減していた石炭は、天然ガスの高騰により、需要が増加し、価格が高騰高騰しています。また、生産調整を行っていた原油についても、急速な需要により、価格が高騰しています（1バレル85ドル前後）。

（2）鉄鋼石・非鉄金属・半導体・穀物価格等の動向

①鉄鉱石

2018年～2019年頃、鉄鋼業界は、過剰供給状況にあり、各国の鉄鋼メーカーは、高炉設備の廃棄を進めていました。

しかし、2020年秋からの世界経済の回復、2021年初めの日本経済の回復により、急速に鉄鋼需要が増大し、鉄鉱石に対する需要が高まりました。鉄鉱石の価格は、2018年7月と比較し、2021年7月には3倍の価格まで上昇しました。その後、中国経済の低迷により、中国国内での鉄鉱石需要が減少し、2021年10月には、2021年7月と比較し、30%以上下落しています。

②非鉄金属

非鉄金属の価格は、2020年4月を底に、2021年10月までの間、上昇しており、特に、錫、ニッケル、銅の価格は2倍近くの上昇です。

③半導体価格

IOT、5G等の通信機器、AI・ロボット、車や電化製品等に対する需要増大により、その中心的な部品である半導体の需要が年々増加し、半導体の価格が上昇しています。

④穀物価格の上昇

2021年の米国等における干ばつによる不作、国際物流コストの上昇等により、大豆、小麦、トウモロコシ価格は、2018年～2019年と比較し、2倍程度の価格まで上昇しており、今後も不透明な状況です。

⑤貴金属の価格

貴金属（金、プラチナ）の価格は、2018年10月と比較し、1.5倍程度に上昇しています。

★事務所から★

10月に入り、コロナの影響も緩和され、11月以降経済活動は、活性化していく見込みです。日本企業にとり、生産性の向上が大きな課題であり、これを積極的に改善して下さい。
(公認会計士辻中事務所、税理士法人みらい)